

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧表

令和8年5月1日

北都保健福祉専門学校 看護学科

科目名	学年	単位数	担当する教員の実務経験	教員氏名
基礎看護学概論	1	1	看護師として臨床経験5年以上	鳴海繭花
基礎看護学方法論Ⅶ	1	1	看護師として臨床経験5年以上	三上美紀
成人看護学概論Ⅰ	1	1	看護師として臨床経験5年以上	大橋正敏
老年看護学概論	1	1	看護師として臨床経験5年以上	宗像祐二
母性看護学概論	1	1	助産師として臨床経験5年以上	澤田みどり
成人看護学方法論Ⅰ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	畑中亜希美
成人看護学方法論Ⅲ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	原田明奈
老年看護学方法論Ⅰ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	白瀧美由紀
精神看護学方法論Ⅱ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	鳴海繭花 三上あすか
精神看護学方法論Ⅲ	2	1	看護師として臨床経験5年以上	坂井聖康
診療の補助技術における安全	3	1	看護師として臨床経験5年以上	宗像祐二 畑中亜希美 原田明奈
臨床看護の実践	3	1	看護師として臨床経験5年以上	矢野優子
	計	12		

科目名	基礎看護学概論		
担当教員	鳴海繭花		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
各看護学の基礎となる、看護の概念を学び、目的・役割・機能を理解する。また、看護実践の基盤となる、倫理および看護職の活動の広がりを学ぶ			
到達目標			
1.看護の定義および理論を知り、看護の概念を理解する			
2.看護の対象である人間を理解し、「健康」「環境」「暮らし」について学ぶ。			
3.看護の役割と機能を学び、看護と社会のつながりを理解する。			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
看護とは何か？みなさんと一緒に考えていきたいと思えます。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[1] 看護学概論	茂野 香おる	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	看護とは ガイダンス・看護の変遷	鳴海
2	看護とは 看護の定義	鳴海
3	看護とは 看護の役割と機能	鳴海
4	看護の対象の理解 人間の「こころ」と「からだ」	鳴海
5	看護の対象の理解 発達し続ける存在としての人間の理解	鳴海
6	看護の対象の理解 人間の「暮らし」の理解／家族・集団・地域	鳴海
7	看護の対象の理解 グループワーク	鳴海
8	国民の健康状態と生活 健康の捉え方	鳴海
9	国民の健康状態と生活 国民の健康状態・ライフサイクル	鳴海
10	看護の提供者 職業としての看護 看護職の資格・養成制度	鳴海
11	看護における倫理	鳴海
12	看護の提供のしくみ チーム医療／サービス提供の場	鳴海
13	看護の提供のしくみ 看護制度・政策・看護管理・医療安全	鳴海
14	広がる看護の活動領域 国際化と看護／災害時における看護	鳴海
15	履修認定	鳴海

科目名	成人看護学方法論Ⅰ		
担当教員	畑中 亜希美		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
生命の危機状況および周手術期にある対象と家族を理解し、手術侵襲や危機的状況からの回復に必要な看護を学ぶ			
到達目標			
1. 急性期状況及び周手術期の特徴を理解する。 2. 急性期状況及び周手術期の対象と家族への看護を理解する。 3. 生命危機にある対象の看護を理解する。 4. 周手術期にある対象の看護過程の展開を学ぶ			
授業の形式・方法			
講義・演習・DVD			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（50％）・レポート（50％） *不合格者は各配点分（筆記・レポート）の再試験を行い、再評価する。			
学生へのメッセージ			
身体侵襲理論など既習内容を想起し、生命の危機状態にある対象への看護の理解を深めてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論	小松 浩子	医学書院	
系統看護学講座 別巻 家族看護学	上別府 圭子	医学書院	
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	矢永 勝彦(編)	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	成人と急性期・急性期医療とは 急性期にある対象の特徴と看護	畑中
2	急性の循環機能障害のある患者の看護 事例:心筋梗塞	畑中
3	急性の循環機能障害のある患者の看護の実際 事例:心筋梗塞	畑中
4	周術期にある対象の理解と受ける医療 周術期看護：外科治療と外科看護	畑中
5	周術期にある対象の理解と受ける医療 周術期看護：手術室看護	畑中
6	周術期にある対象の理解と受ける医療 周術期の看護：術後の看護、術後合併症予防の看護	畑中
7	周術期にある対象の理解と受ける医療 周術期の看護：手術帰室時看護 演習・ワーク	畑中
8	周手術期にある対象の事例展開 事例:大腸がん	畑中
9	(1)アセスメント (2)アセスメントに基づいた問題の明確化 (3)看護計画の立案	畑中
10	(4)実施・評価	畑中
11		畑中
12		畑中
13		畑中
14		畑中
15	履修認定	畑中

科目名	成人看護学方法論Ⅲ		
担当教員	原田 明奈		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要 障害がある人の生活とリハビリテーションを支援する看護を学ぶ			
到達目標 1.障害とは何かについて学び、障害がある人の障害の認識過程を知る 2.障害をもちながら生活する人を支援する看護を学ぶ 3.対象の日常生活を再構築するための看護について学ぶ 4.脳神経に障害のある対象と家族の看護を理解する 5.腎機能に障害のある対象と家族を理解する 6.事例をもとに障害がある対象の看護過程の展開を学ぶ			
授業の形式・方法 講義 演習			
成績評価の方法・基準 筆記試験（50％）レポート（50％） * 不合格者は再試験(筆記試験およびレポート再提出)を行い、再評価とする。			
学生へのメッセージ 運動機能障害・脳神経障害は早期に治療を行っても完全治癒は難しく機能障害を残すことが多い。機能障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、リハビリテーションにおける看護者の役割を深めてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論	小松 浩子	医学書院	
系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護	原 三紀子	医学書院	
系統看護学講座 専門 臨床看護総論	香春 知永	医学書院	
看護過程に沿った 対症看護	高木 永子	Gakken	

コマ	履修内容	教員
1	1.障害がある人の生活とリハビリテーション 1) 障害がある人とリハビリテーション 2) 障害がある人とその生活を支援する看護	原田
2	2.回復期における看護 1) 回復期の特徴 2) 回復期の対象 3.ステージ別リハビリテーション看護 1) 急性期 2) 回復期 3) 生活期	原田
3	腎機能に障害のある対象の看護 1)疾患の理解（糖尿病性腎症） 2)対象の理解 3)疾患の病態サマリー 4)症状と看護	原田
4	5)退院に向けたセルフケアと看護	原田
5	脳神経に障害のある対象の看護 1)疾患の理解（脳梗塞） 2)対象の理解 3)疾患の病態サマリー 4)症状と看護	原田
6	5)退院に向けたセルフケアと看護	原田
7	機能障害がある対象の事例展開 事例：脳梗塞	原田
8	1)アセスメント	原田
9	2)アセスメントに基づいた問題の明確化 3)看護計画の立案	原田
10	4)実施・評価	原田
11		原田
12		原田
13		原田
14		原田
15	履修認定	原田

科目名	基礎看護学方法論Ⅶ		
担当教員	三上 美紀		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	後期	1	30
履修目的・授業概要			
<p>清潔の意義を理解し、各清潔援助の援助方法を習得する。</p> <p>衣服を身につけることの意義を理解し、寝衣の交換方法を習得する。</p>			
到達目標			
<p>1.清潔の意義、留意点を理解する。</p> <p>2.清潔の基本的な援助を実施することができる。</p> <p>3.衣服を身につけることの意義、寝衣交換の留意点を理解する。</p> <p>4.基本的な寝衣交換と制限のある方にたいする寝衣交換を実施することができる。</p>			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（60％）技術試験（40％）			
学生へのメッセージ			
<p>人にとっての清潔行動の意味をとらえ、看護の対象にとって安全で安楽な援助を実践するための知識・技術・態度を学びましょう。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	任 和子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	清潔の援助の基礎知識	三上
2	衣生活の援助 援助の基礎知識と実際	三上
3	2.清潔援助の実際 ①入浴・シャワー浴 援助の基礎知識と実際	三上
4	②-1全身清拭 援助の基礎知識	三上
5	②-2全身清拭 援助の実際	三上
6	②-3全身清拭 援助の実際	三上
7	③-1洗髪 援助の基礎知識	三上
8	③-洗髪 援助の実際	三上
9	④手浴 援助の基礎知識と実際	三上
10	⑤足浴とフットケア 援助の基礎知識と実際	三上
11	⑥-1陰部洗浄 援助の基礎知識	三上
12	⑥-2陰部洗浄 援助の実際	三上
13	⑦整容	三上
14	⑧口腔ケア	三上
15	筆記試験 技術試験	三上

科目名	老年看護学方法論Ⅰ		
担当教員	白瀧 美由紀		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2	前期	1	30
履修目的・授業概要			
<p>老年期に生じやすい健康障害や日常生活でどのような不自由が生じやすいのかを理解し、必要とされる看護について学ぶ。</p>			
到達目標			
<p>1. 高齢者の日常生活が加齢によりどのような影響を受けるか理解できる。</p> <p>2. 高齢者に対する日常生活の援助方法について理解できる</p>			
授業の形式・方法			
講義 演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%）			
学生へのメッセージ			
<p>日頃から祖父母や近隣の高齢者の日常生活の様子に関心を寄せてください。看護師としての臨床経験を活かし、高齢者の生活を支える看護について教授します。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
老年看護学	北川公子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	高齢者の健康生活を支える看護（1） 生活・療養の場における看護	白瀧
2	高齢者の健康生活を支える看護（2） 生活・療養の場における看護	白瀧
3	高齢者の健康生活を支える看護（3） 高齢者の健康生活の理解	白瀧
4	高齢者の健康生活を支える看護（4） ①呼吸する	白瀧
5	高齢者の健康生活を支える看護（5） ②食べる・飲む	白瀧
6	高齢者の健康生活を支える看護（6） ③排泄する	白瀧
7	高齢者の健康生活を支える看護（7） ④動く・よい姿勢を保持する	白瀧
8	高齢者の健康生活を支える看護（8） ⑤眠る・休息をとる	白瀧
9	高齢者の健康生活を支える看護（9） ⑥衣類を選び着脱する/⑦体温を維持する	白瀧
10	高齢者の健康生活を支える看護（10） ⑧整容し清潔を保つ	白瀧
11	高齢者の健康生活を支える看護（11） ⑨危険から身を守る	白瀧
12	高齢者の健康生活を支える看護（12） ⑩コミュニケーション/⑪値観・信念	白瀧
13	高齢者の健康生活を支える看護（13） ⑫社会参加/⑬レクリエーション・気分転換	白瀧
14	高齢者の健康生活を支える看護（14） ⑭学習する/まとめ	白瀧
15	履修認定	白瀧



科目名	老年看護学概論		
担当教員	宗像 祐二		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1	後期	1	30
履修目的・授業概要			
<p>高齢者の加齢現象を身体的・心理的・社会的側面から理解し、生活・療養の場の特徴を捉え、対象とその家族への看護を実践する基礎的能力を養います。また高齢者医療の現状と課題に触れ、看護の役割について理解を深めていきます。</p>			
到達目標			
<p>超高齢社会の様相、高齢者の倫理的課題を理解する。          老年看護の役割を理解する。          高齢者を身体・心理・社会的側面から理解する。          高齢者に対するヘルスアセスメントの方法を理解する。</p>			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
<p>高齢者の時代・生活背景から高齢者を理解する目的でレポートを作成します。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
老年看護学	北川公子	医学書院	
老年看護病態・疾患論	鳥羽研二	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	老いるということ、老いを生きるということ	宗像
2	超高齢社会と社会保障	宗像
3	超高齢社会における老年看護への期待	宗像
4	老年看護のなりたち	宗像
5	高齢者の生理的特徴 老化の捉え方 老化とは 老化と原因 認知・知覚機能	宗像
6	老年症候群（1） 老年症候群の特徴 急性疾患に付随する症候	宗像
7	老年症候群（2） 慢性疾患に付随する症候 ADL低下と密接な関連をもつ症候 フレイル	宗像
8	高齢者のヘルスアセスメント	宗像
9	高齢者健康機能の把握と総合機能評価（1） 高齢者のフィジカルアセスメント	宗像
10	高齢者健康機能の把握と総合機能評価（2） バイタルサイン測定・身体測定 栄養評価 高齢者総合機能評価	宗像
11	生活・療養の場における看護（1） 高齢者とヘルスプロモーション	宗像
12	生活・療養の場における看護（2） 保健医療福祉施設および居住施設における看護	宗像
13	生活・療養の場における看護（3） 家族の看護 多職種実践	宗像
14	高齢者のリスクマネジメント 医療安全・救命救急・災害	宗像
15	履修認定	宗像

科目名	母性看護学概論		
担当教員	澤田 みどり		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
1年	後期	1	15
履修目的・授業概要			
母性の概念を通して、母性看護の対象とその基盤となる社会の動向を学ぶ			
到達目標			
1. 母性看護の対象と視点を理解する			
2. 母性看護職の職責と法的義務、倫理的配慮について理解する			
3. 母性看護で用いられる理論を理解する			
4. 母性看護に活用する統計・法律・施策を理解する			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
日頃から、母子保健に関わるニュースや親子関係などについて、意識して情報収集してみてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 母性看護学[1] 母性看護学概論	森 恵美	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 人口・歴史的変遷と母性看護の関係	澤田
2	母性とは・看護の視点・セクシャリティ リプロダクティブヘルス・ライツ	澤田
3	母性の健康・性に関する健康（性感染症） 生殖器の形態・機能の変化	澤田
4	女性の性周期 親になること・母子関係・家族発達	澤田
5	母性看護理論/母性看護のあり方 母性看護における倫理	澤田
6	母性看護に関わる法律 女性、子供の権利保障	澤田
7	母子保健統計（世界・日本・旭川） 母子保健政策/母性看護の提供システム	澤田
8	履修認定	澤田
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	精神看護学方法論 II		
担当教員	鳴海 繭花 三上 あすか		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
精神障害をもつ人へのケアの基本的な方法、回復を支える治療的アプローチを学ぶ。治療的環境をつくり出すために看護師に求められていることを学ぶ。看護には感情労働の側面があり、メンタルヘルス上の問題を引き起こす可能性があることを知る。			
到達目標			
1) ケアの原則がわかる			
2) ケアの基本的な方法がわかる			
3) 患者にとっての回復リカバリーの意味を理解する			
4) 治療的環境の条件がわかる			
5) 地域で暮らす精神障害者の生活を支援する方法を理解する			
6) リエゾン精神看護の役割と活動を知る			
7) 感情労働が看護師のメンタルヘルスに及ぼす影響を知る			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
予習・復習をして授業を受けてください、			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
精神看護の基礎	武井麻子	医学書院	
精神看護の展開	武井麻子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	ケアの人間関係 ケアの前提・ケアの原則	三上 あ
2	ケアの人間関係 ケアの方法	三上 あ
3	患者－看護師関係における感情体験 困難事例 チームのダイナミクス	三上 あ
4	回復を支援する リカバリーのプロセス	鳴海
5	回復を支援する リカバリーを促す環境・方法	鳴海
6	回復を支援する さまざまな回復のためのプログラム	鳴海
7	回復を支援する 回復のためのプログラムの実際	鳴海
8	地域におけるケアと支援 地域における生活支援の方法	三上 あ
9	地域におけるケアと支援 地域におけるケアの方法と実際	三上 あ
10	地域におけるケアと支援 職場におけるメンタルヘルスと看護	三上 あ
11	地域におけるケアと支援 学校におけるメンタルヘルスと看護	三上 あ
12	医療の場におけるメンタルヘルスと看護	三上 あ
13	災害時のメンタルヘルスと看護	三上 あ
14	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	三上 あ
15	履修認定	鳴海 三上あ

科目名	精神看護学方法論Ⅲ		
担当教員	坂井 聖康		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	後期	1	30
履修目的・授業概要			
患者の生きにくさの大半は人間関係に関連していて、看護師が患者とのやりとりを吟味することで、その生きにくさを知ることが可能になる。自分をみる自分という視点を獲得することを目指す。また患者の身体面・心理面・社会面のアセスメントから看護援助の方向性を見出す			
到達目標			
1) 自分自身の感情に気づける 2) やりとりの意味、つながりを見つけられる 3) 自分の感情を手がかりに患者を理解できる 4) 患者の背景や人となりを知るための精神科アセスメントができる 5) 患者の生活状況を全体的に把握するための生活状況アセスメントができる			
授業の形式・方法			
講義形式・グループワーク			
成績評価の方法・基準			
出席2/3以上で履修認定試験を行う。60点以上を合格とし、満たない場合は、再試験を行う			
学生へのメッセージ			
プロセスレコードは、実習で書きますので、休まないようにしてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
精神看護の展開	武井麻子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	プロセスレコードとは プロセスレコードのしかけ	坂井
2	関係をアセスメントする アセスメントのポイント	坂井
3	ペプロウの理論	坂井
4	事例でみるプロセスレコードの読み方①	坂井
5	事例でみるプロセスレコードの読み方②	坂井
6	プロセスレコードの書き方①	坂井
7	プロセスレコードの書き方②	坂井
8	オーランド、トラベルビーの理論	坂井
9	精神看護実習で遭遇する場面① 幻覚のある患者のアセスメント	坂井
10	精神看護実習で遭遇する場面② 幻覚のある患者のアセスメント	坂井
11	精神看護実習で遭遇する場面③ 妄想のある患者のアセスメント	坂井
12	精神看護実習で遭遇する場面④ 妄想のある患者のアセスメント	坂井
13	精神看護実習で遭遇する場面⑤ 拒否・攻撃性のある患者のアセスメント	坂井
14	精神看護実習で遭遇する場面⑥ 無為・自閉の患者のアセスメント	坂井
15	履修認定	坂井

科目名	診療の補助技術における安全		
担当教員	原田 明奈 畑中 亜希美 宗像 祐二		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
3年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
医療の質と安全の確保に必要な思考と技術を講義、演習を通して、実践的に学ぶ。			
到達目標			
1. 医療事故が起こる原因が理解できる			
2. 医療事故防止の考え方が理解できる			
3. 起こりやすい医療事故とその対策を理解できる			
授業の形式・方法			
講義 演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 専門分野医療安全	川村治子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	医療事故防止の考え方	宗像
2	投与業務における事故防止 注射、医療機器	宗像
3	投与業務における事故防止 輸血、内服与薬、経管栄養業務	畑中
4	投与業務における事故防止 演習：事件事例から原因と対策を考える	畑中
5	投与業務における事故防止 演習：事件事例から原因と対策を考える	畑中
6	投与業務における事故防止 グループワーク	畑中
7	チューブ類の観察・管理における事故防止 チューブ管理と事故防止	畑中
8	チューブ類の観察・管理における事故防止 主要なチューブの危険・自己抜去防止	畑中
9	療養上の世話の事故防止 転倒・転落防止/摂食中の窒息・誤嚥事故防止	原田
10	療養上の世話の事故防止 異食事故防止/入浴中の事故防止	原田
11	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 さまざまな業務における患者間違いのおもな要因と防止	原田
12	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 多重課題/タイムレッスン/新人特有の危険	原田
13	医療安全とコミュニケーション チーム医療におけるコミュニケーションの重要性	原田
14	医療安全とコミュニケーション 安全な医療・看護のためのコミュニケーション 1) 医療職間 2) 患者・家族	原田
15	履修認定	宗像 畑中 原田

科目名	臨床看護の実践		
担当教員	矢野 優子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3年	全期	1	30
履修目的・授業概要			
多重課題の実践を通して、知識と技術を統合した適切な判断を学び、自己の看護実践能力を養う。			
到達目標			
1. 多重課題の状況に合わせ、アクシデント・インシデントを予測した対応ができる。			
2. 複数患者の割り込み状況に対して、対象の状態から優先順位を考え対応できる。			
3. 多重課題の看護実践をとおして、自己の実践能力を考察できる。			
授業の形式・方法			
講義 演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（70%）レポート（30%）			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 門分野 臨床看護総論	香春 知永	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	多重課題の看護実践 多重課題における看護の視点	矢野
2	多重課題の看護実践 援助における根拠の明確化	矢野
3	多重課題の看護実践 援助を行うための行動計画の立案	矢野
4	多重課題の看護実践 状況設定に合わせた患者への援助①	矢野
5	状況設定に合わせた患者への援助②	矢野
6	状況設定に合わせた患者への援助③	矢野
7	複数患者への看護実践 割り込み状況の考え方と対処方法	矢野
8	複数患者への看護実践 ケアの優先順位を踏まえた計画の立案①	矢野
9	複数患者への看護実践 ケアの優先順位を踏まえた計画の立案②	矢野
10	複数患者に対するケアの実践①	矢野
11	複数患者に対するケアの実践②	矢野
12	複数患者に対するケアの実践③	矢野
13	複数患者に対するケアの実践④	矢野
14	看護技術の総合的評価の視点	矢野
15	履修認定	矢野